



資料3

# リニアのまちづくり



恵那山と市街地



地歌舞伎



ヒノキ



付知峡



栗きんとん



苗木城跡



五平餅



中山道 馬籠宿



恵那文楽

平成30年11月16日  
岐阜県中津川市

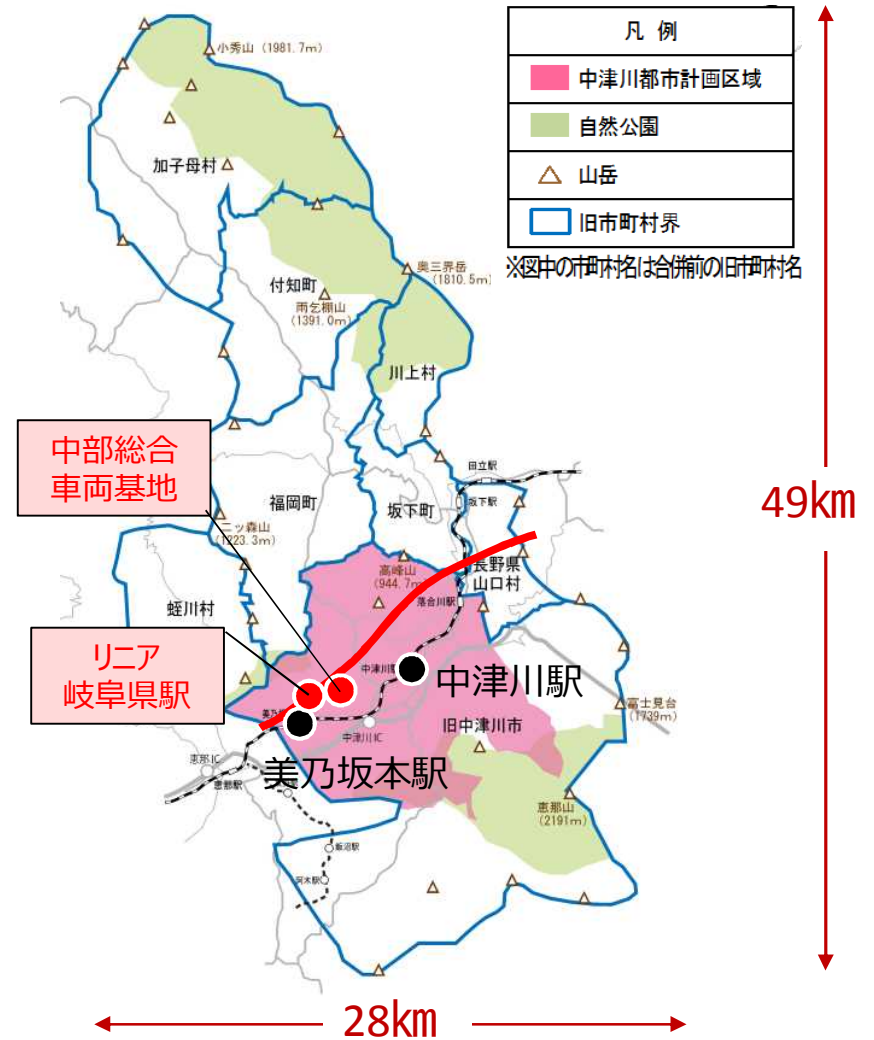
# 1. 中津川市のご紹介

# 1) 位置

## ■ 中津川市の位置

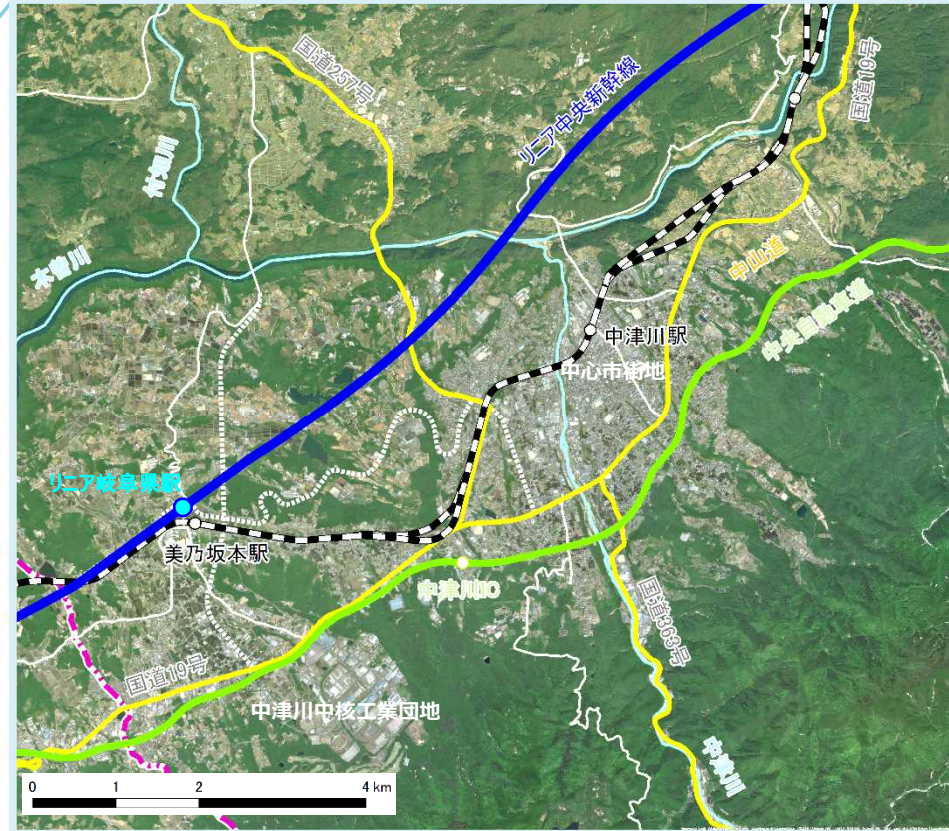
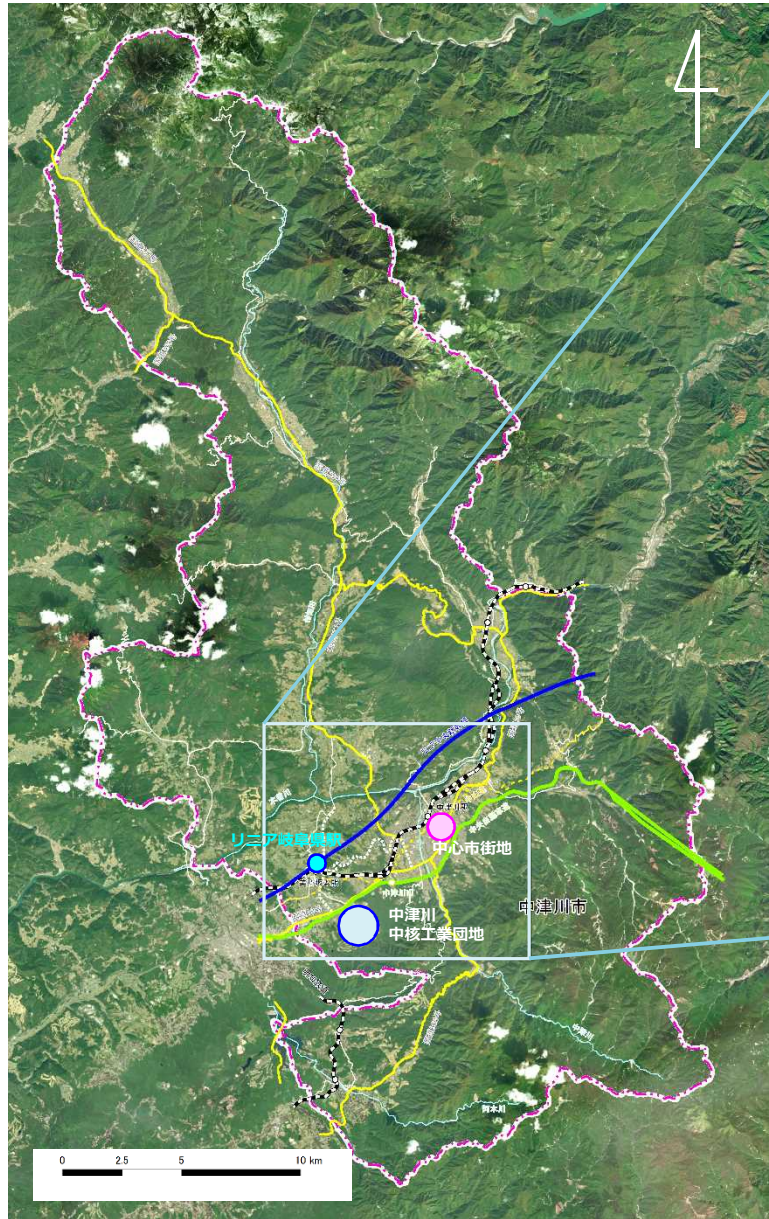


## ■ 中津川市の地区割





# 2) 土地利用・都市交通



**凡例**

行政区域	IC
リニア中央新幹線	高速道路
駅	国道
鉄道	県道
	中山道



# 3) 地域資源 (自然・景勝地)

■ 付知峡



■ 夕森公園



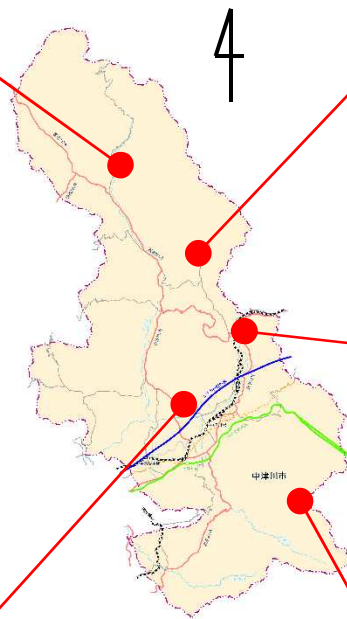
■ 木曾川 (ラフティング)



■ 苗木城跡



■ 恵那山





# 3) 地域資源 (歴史・文化等)

■ 地歌舞伎と「かしも明治座」などの芝居小屋



■ 森林 (もり) の市 (木やり音頭)



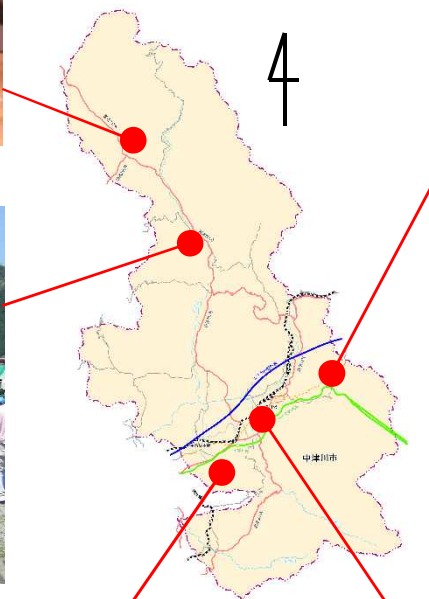
■ 中津川 THE SOLAR BUDOKAN



■ 中山道馬籠宿



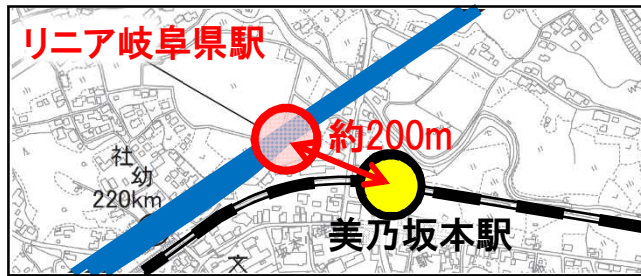
■ 中山道中津川宿での「六斎市」



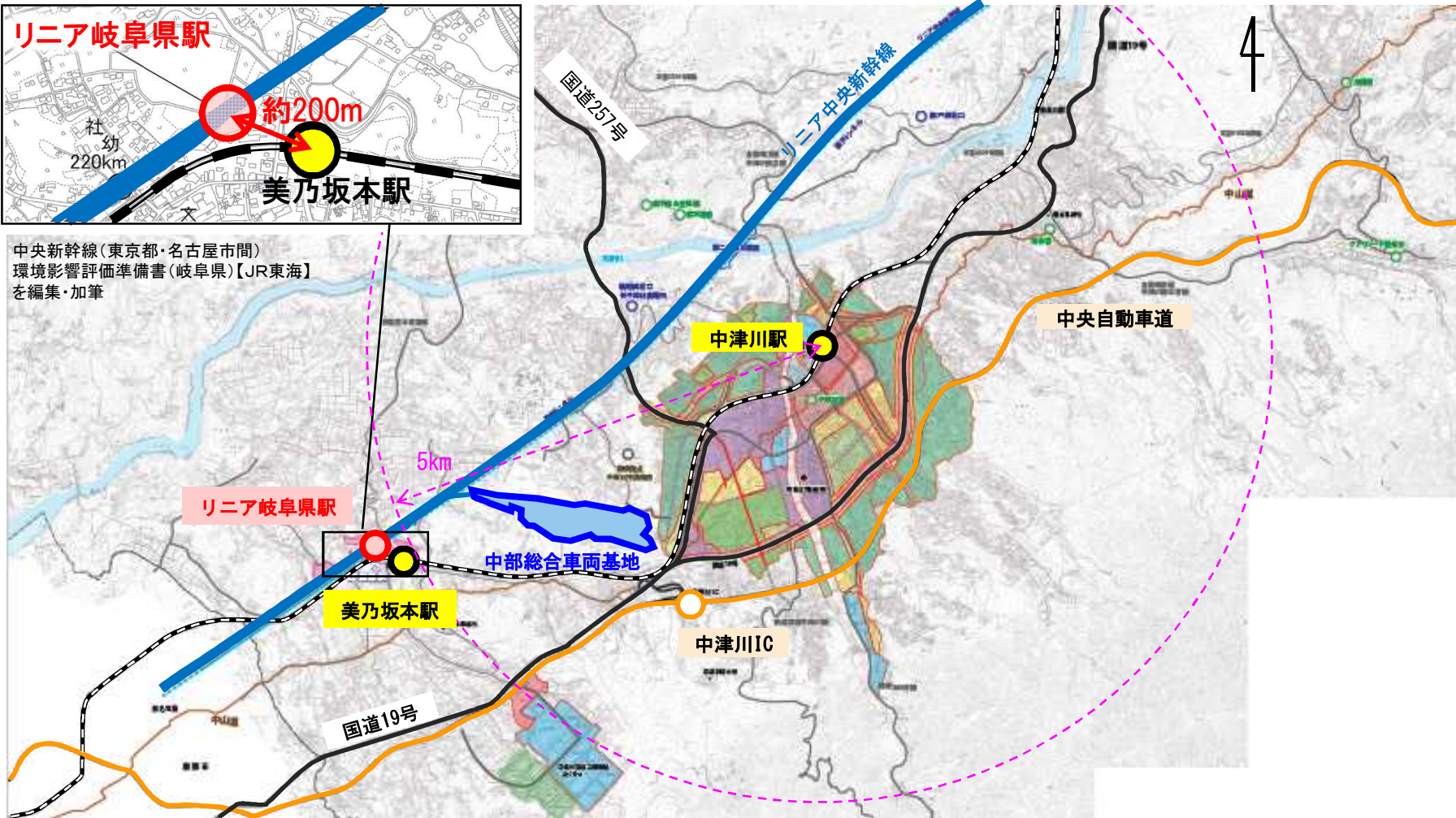
## 2. 市内のリニア中央新幹線等の概要



# 1) リニア岐阜県駅と中部総合車両基地の位置



中央新幹線(東京都・名古屋市間)  
環境影響評価準備書(岐阜県)【JR東海】  
を編集・加筆

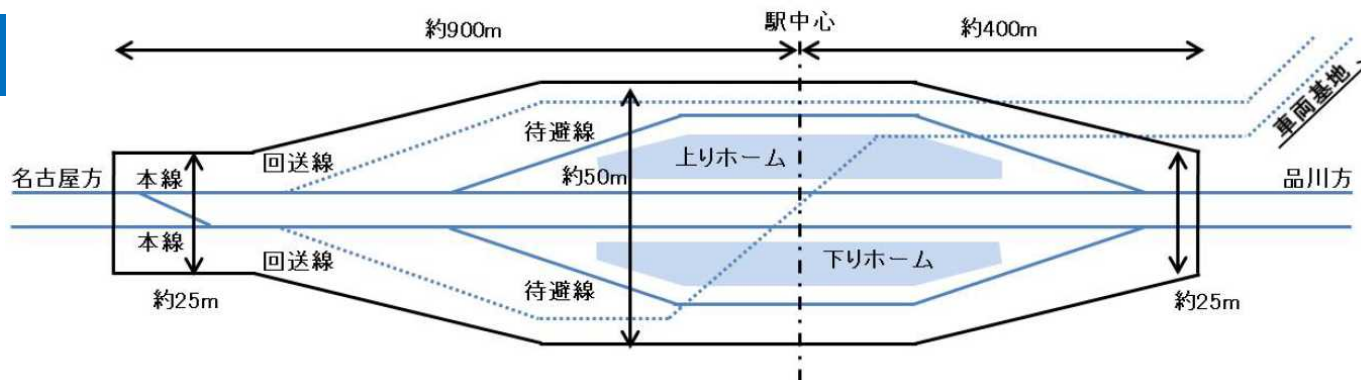




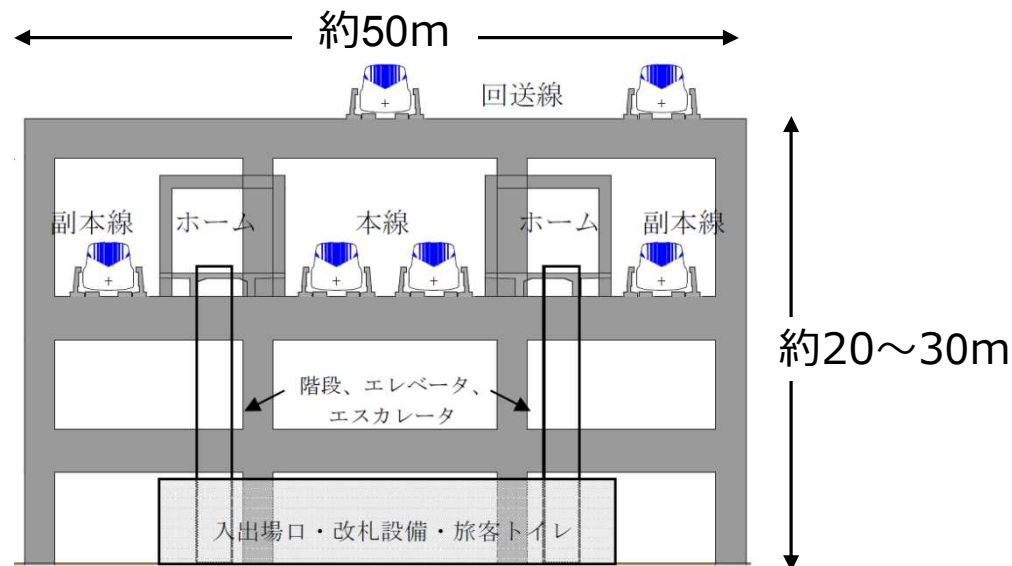
## 2) リニア岐阜県駅の概要



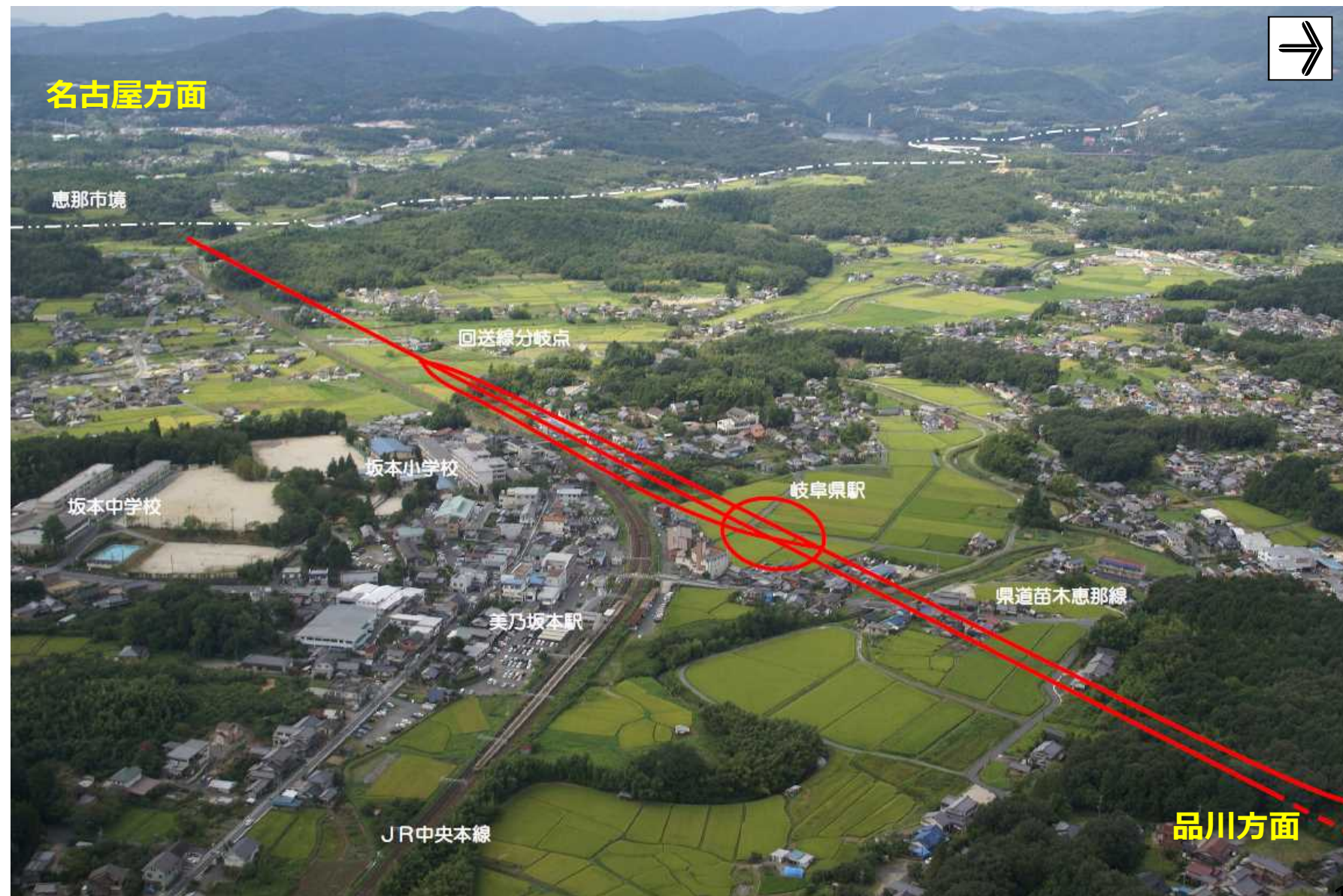
平面図



断面図

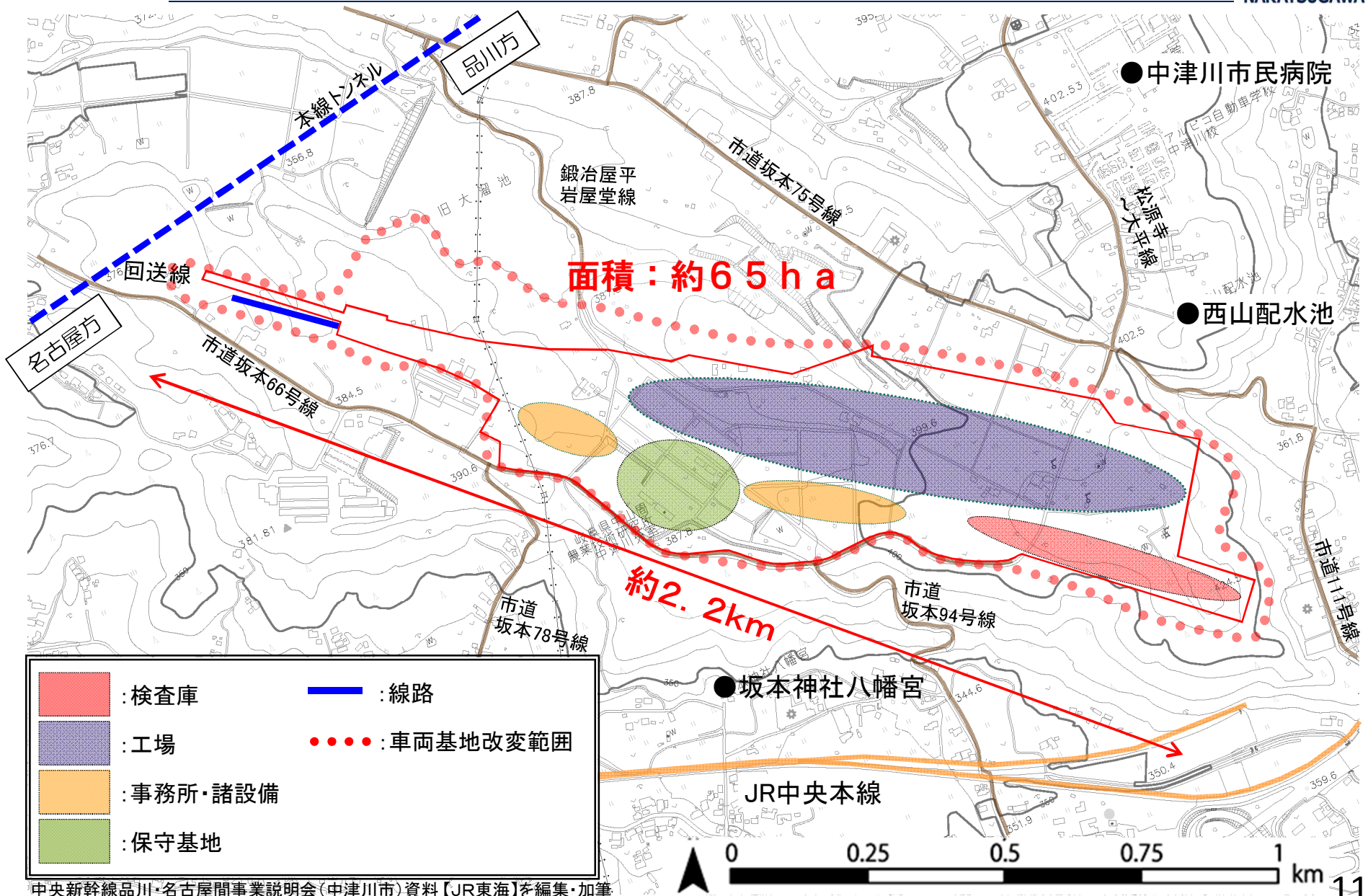


### 3) リニア岐阜県駅の現況土地利用





# 4) 中部総合車両基地の概要



### **3. 中津川市リニアのまちづくりビジョン**



# 1) リニアの効果について

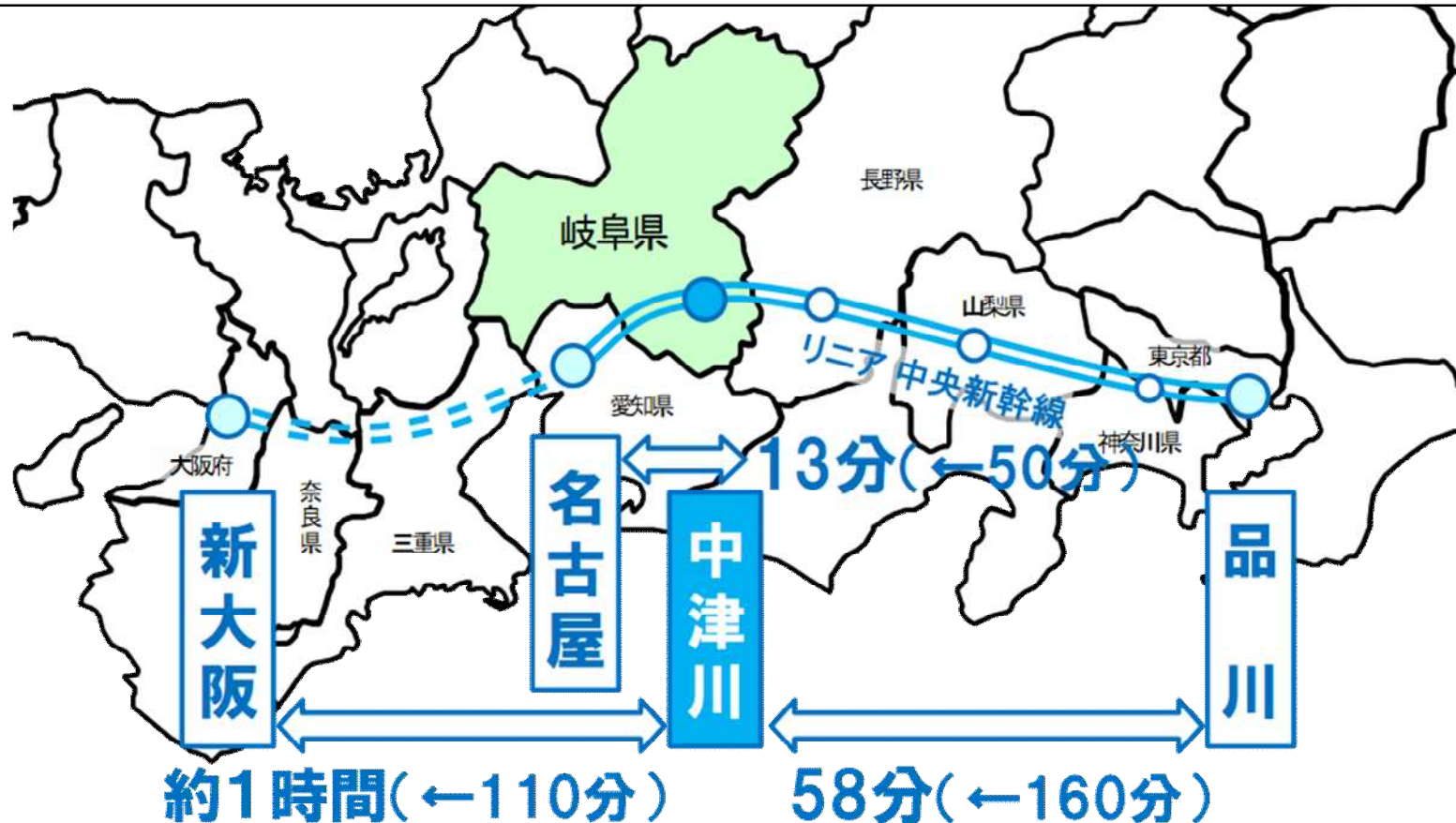
3大都市圏との直結  
大幅な時間距離短縮



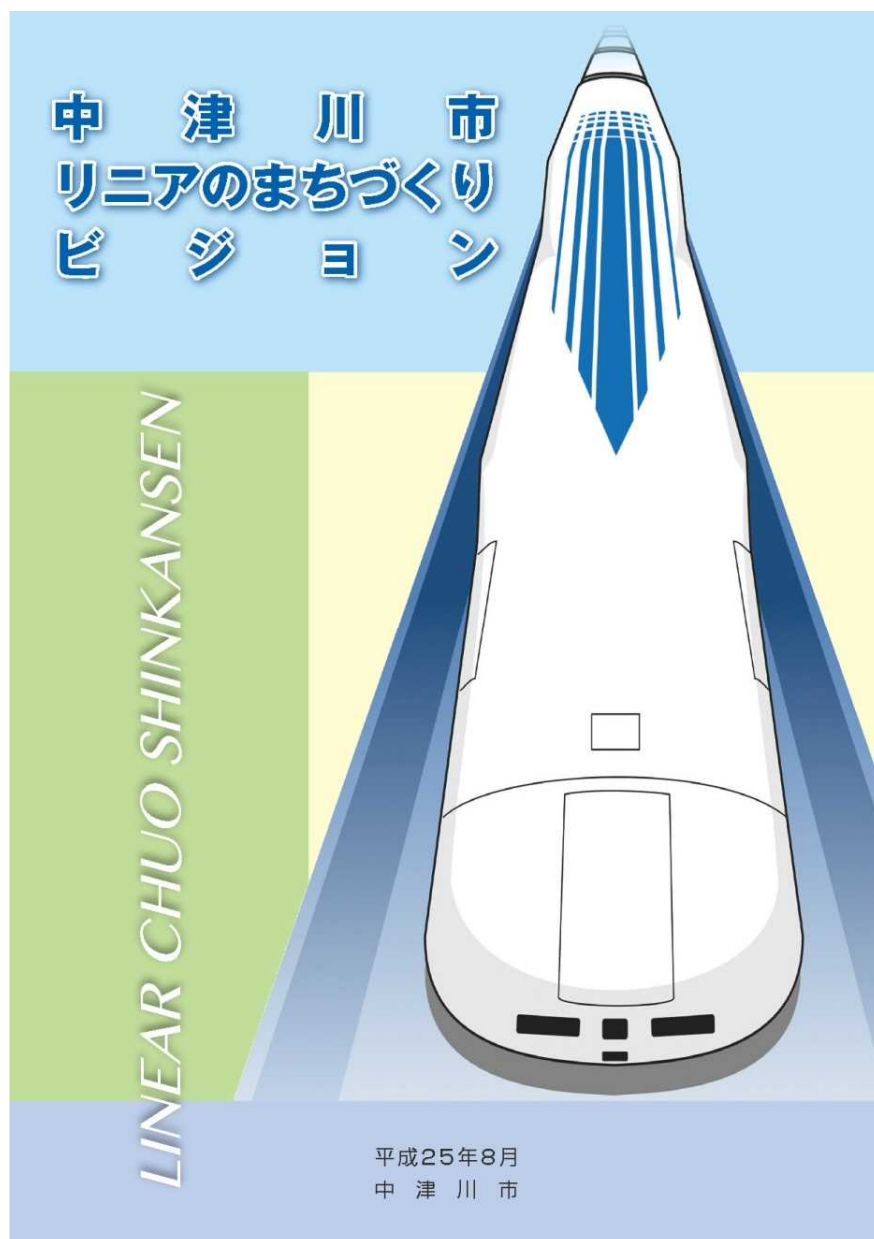
## 地域活性化のチャンス

- ・交流人口の拡大
- ・暮らしの利便性向上
- ・観光や産業の振興
- ・移住・定住の促進

広域交通拠点としての役割を果たす



## 2) まちづくりビジョン策定の趣旨



リニアの開業を活かして、持続的に発展する中津川市をつくる必要がある

「1県1駅」の方針のもと、リニアの波及効果を全県はもとより、県境を越えた周辺地域に行きわたらせる必要がある



リニア時代を見据えた官民一体となった施策の推進を図るため、リニアのまちづくりビジョンを策定



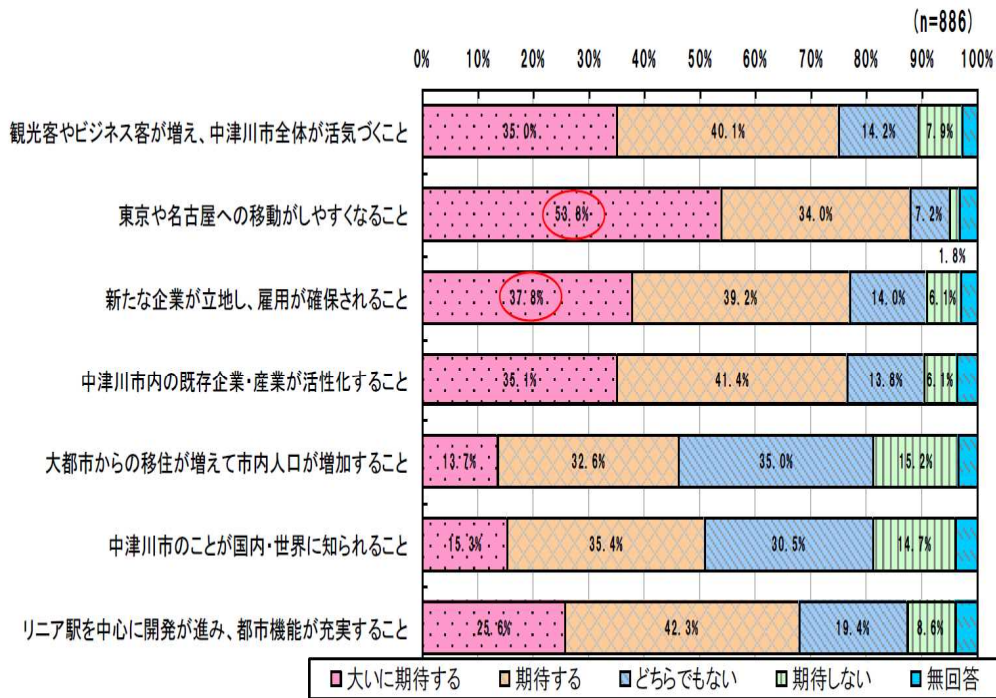
# 3) リニアに対する市民の反応



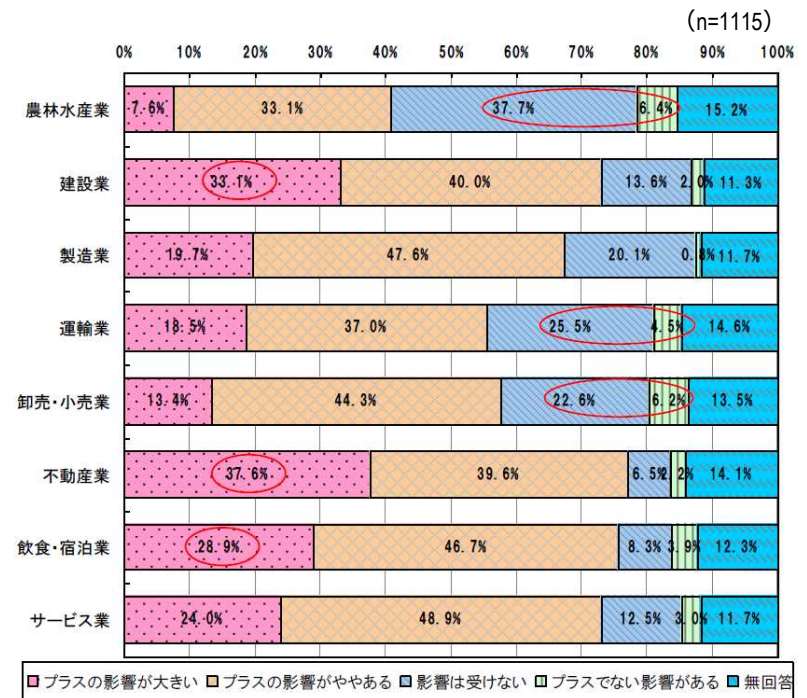
■ リニアを活かしたまちづくりに向けた市民アンケート調査結果（H24）で、リニアへの期待度を調査した結果では、「大いに期待する」「期待する」との回答が多く、市民のリニアへの期待度は高いといえる。

■ リニアを活かしたまちづくりに向けた企業アンケート調査結果（H24）でも、リニア開業による影響についての質問に、「プラスの影響がある」と答えたところが多く、企業のリニアへの期待度も高いといえる。

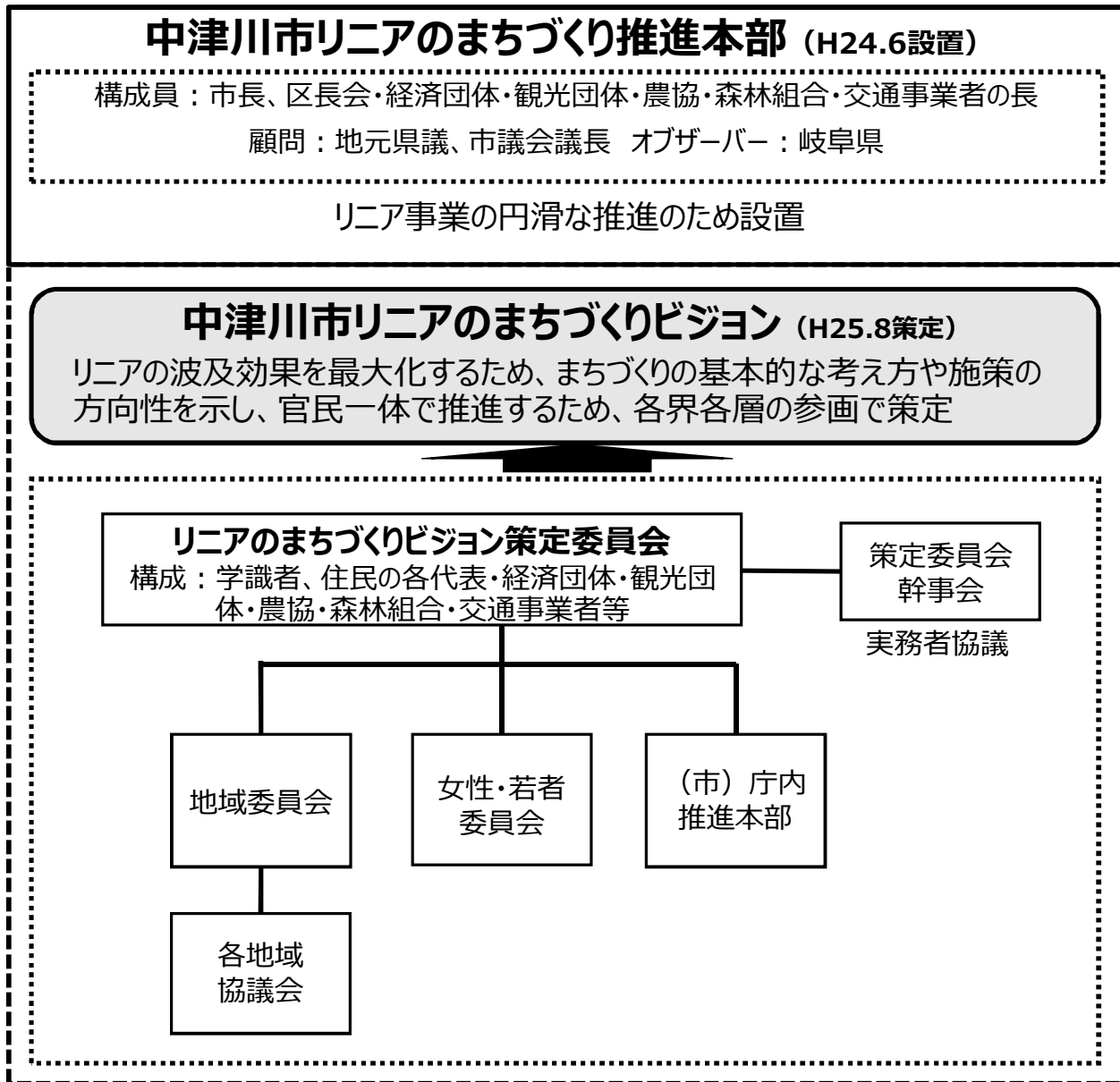
市民への質問：リニア開業の影響として期待すること



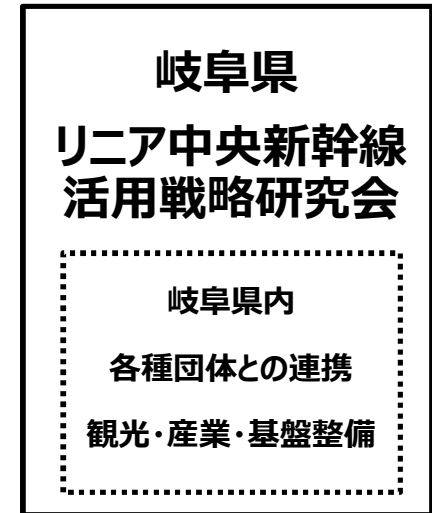
企業への質問：リニア開業による影響について



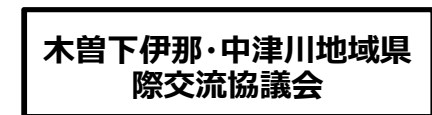
# 4) まちづくりビジョンの策定にあたって



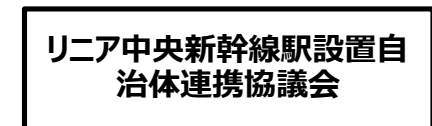
岐阜県内自治体・各種団体等との連携



長野県隣接自治体との連携



中間駅設置自治体との連携





## 5) まちづくりの理念と基本方針



### ■まちづくりの理念

**リニアのホームタウン 水と緑の“なかつがわ”**

～日本の真ん中、訪ねてよし・住んでよしのまちづくり～

### ■基本方針

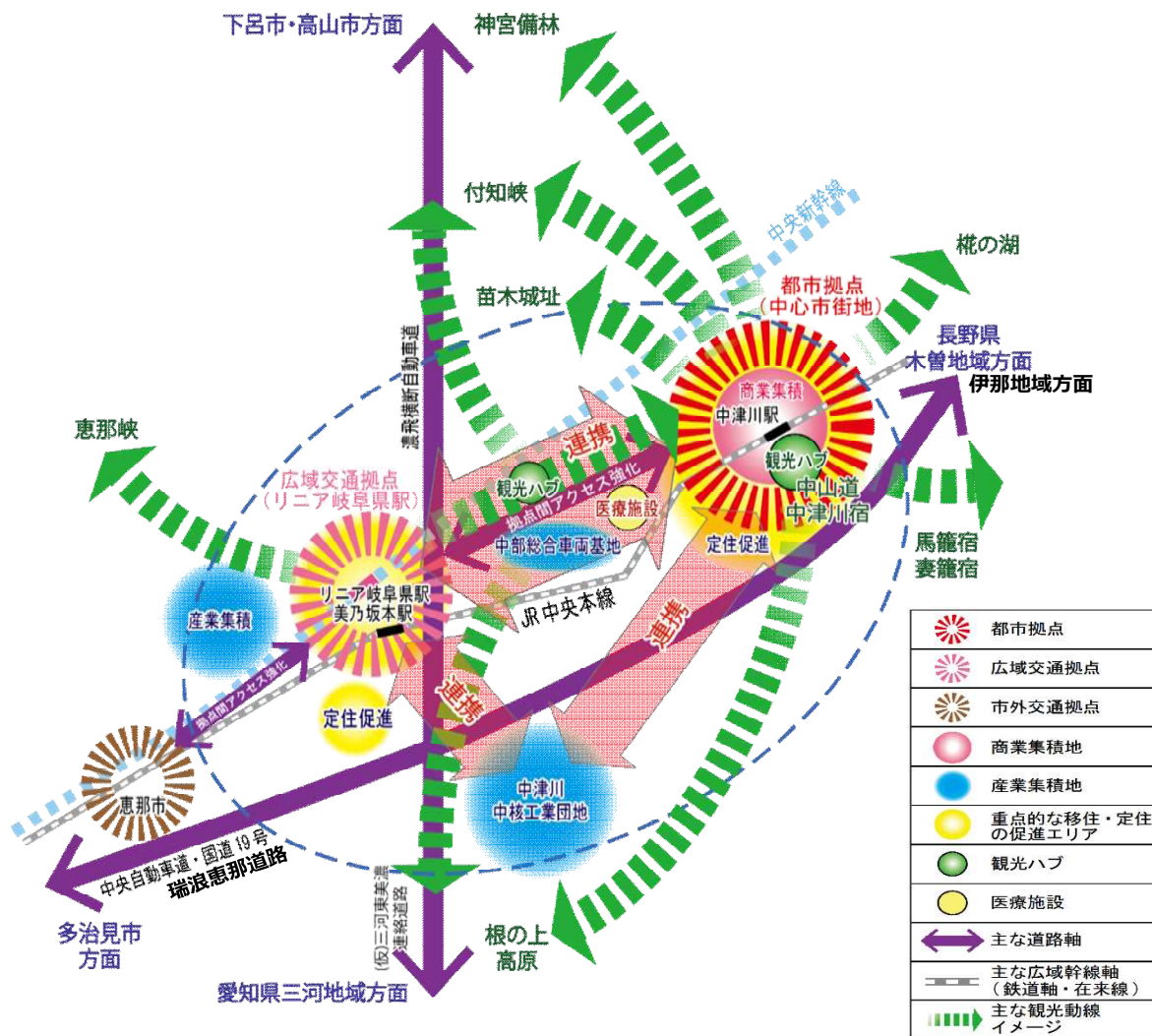
- 方針1 : 開業後の波及効果を産業の活性化と市民の暮らしに活かします
- 方針2 : リニア建設の経済効果を最大限取り込みます
- 方針3 : 開業に伴う影響への対応やシティーセールスを進めます
- 方針4 : 県内・周辺地域の一体的発展という広域的役割を果たします
- 方針5 : 市民や地域との協働による都市計画と基盤の整備を進めます

## 4. これまでの取組み



# 1) リニアを見据えた都市構造

「リニアを活かしたまちづくり」の実現イメージ



J R 中津川駅を核とする中心市街地のエリア

「都市拠点」

- 多様な都市機能を集積
- 広域交通拠点と連携し交流の活性化、賑わいの創出を図る

リニア駅周辺のエリア

「広域交通拠点」

- ストレスのない乗り換え機能の充実（J R 在来線、観光バス、路線バス、タクシー、レンタカー等）
- 商業機能等はコンパクトにし都市拠点へ誘導



## 2) ネットワークを強化する基盤づくり

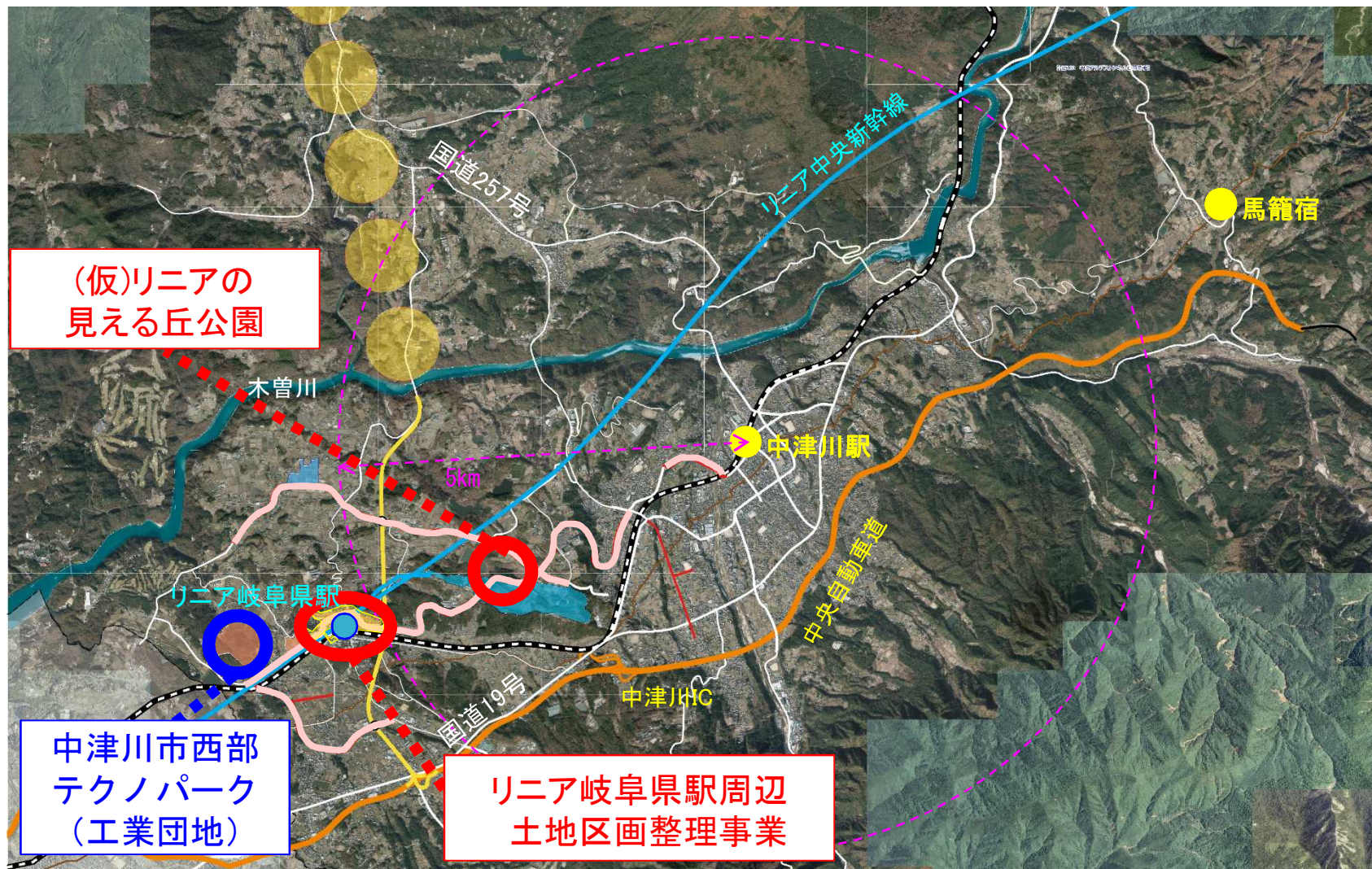
### ■リニア開業に向けた骨格道路網の整備区間





### 3) リニアの波及効果をもつめる拠点整備

#### ■ リニア開業に向けた拠点整備箇所

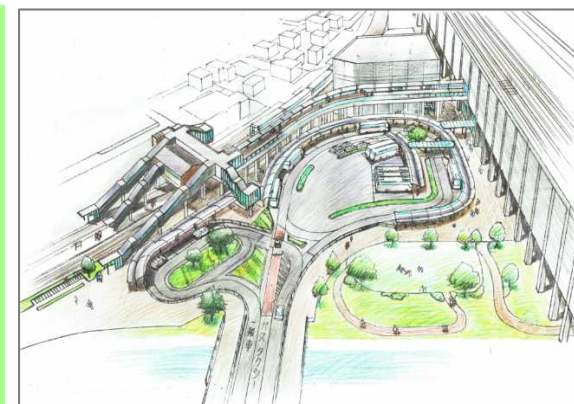
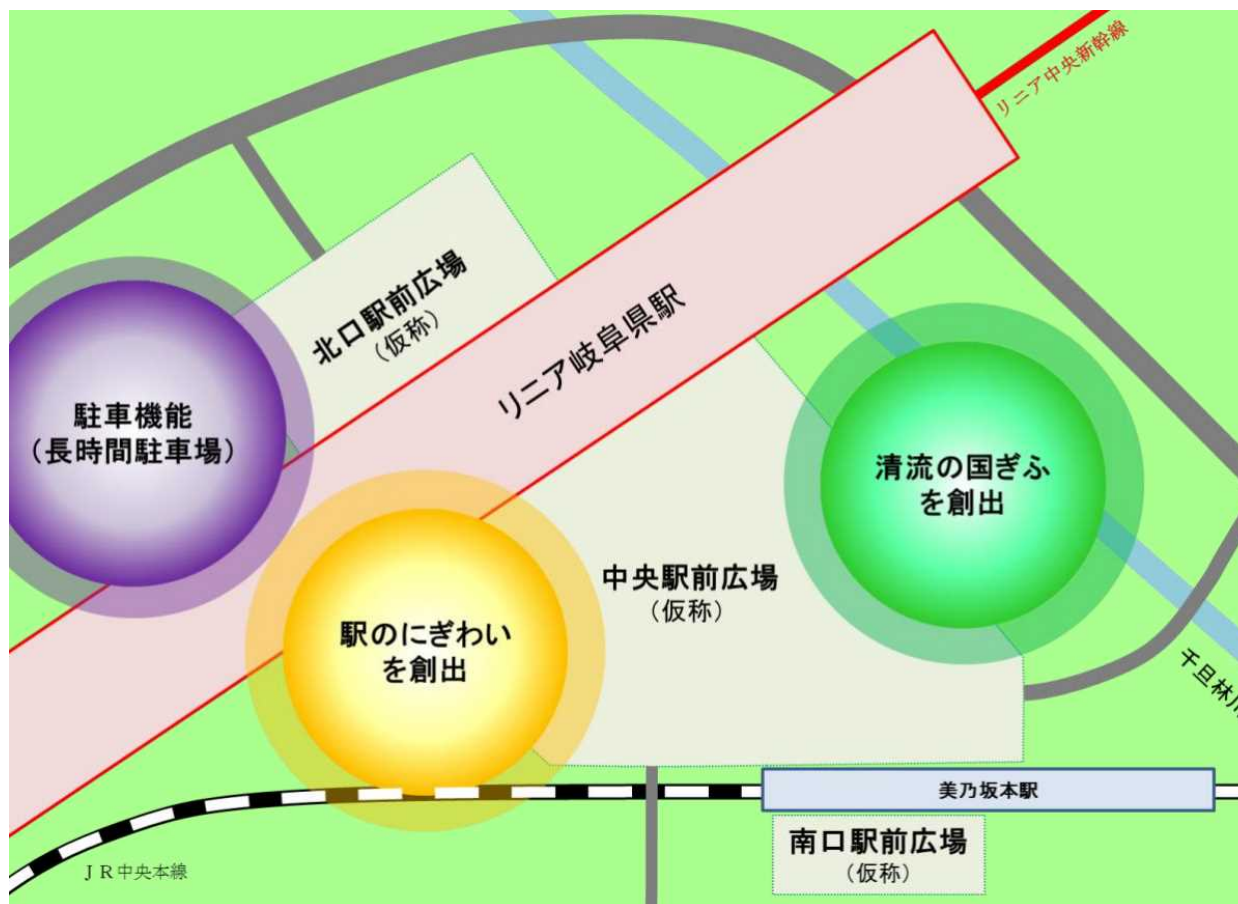




# 3) リニアの波及効果をもつめる拠点整備

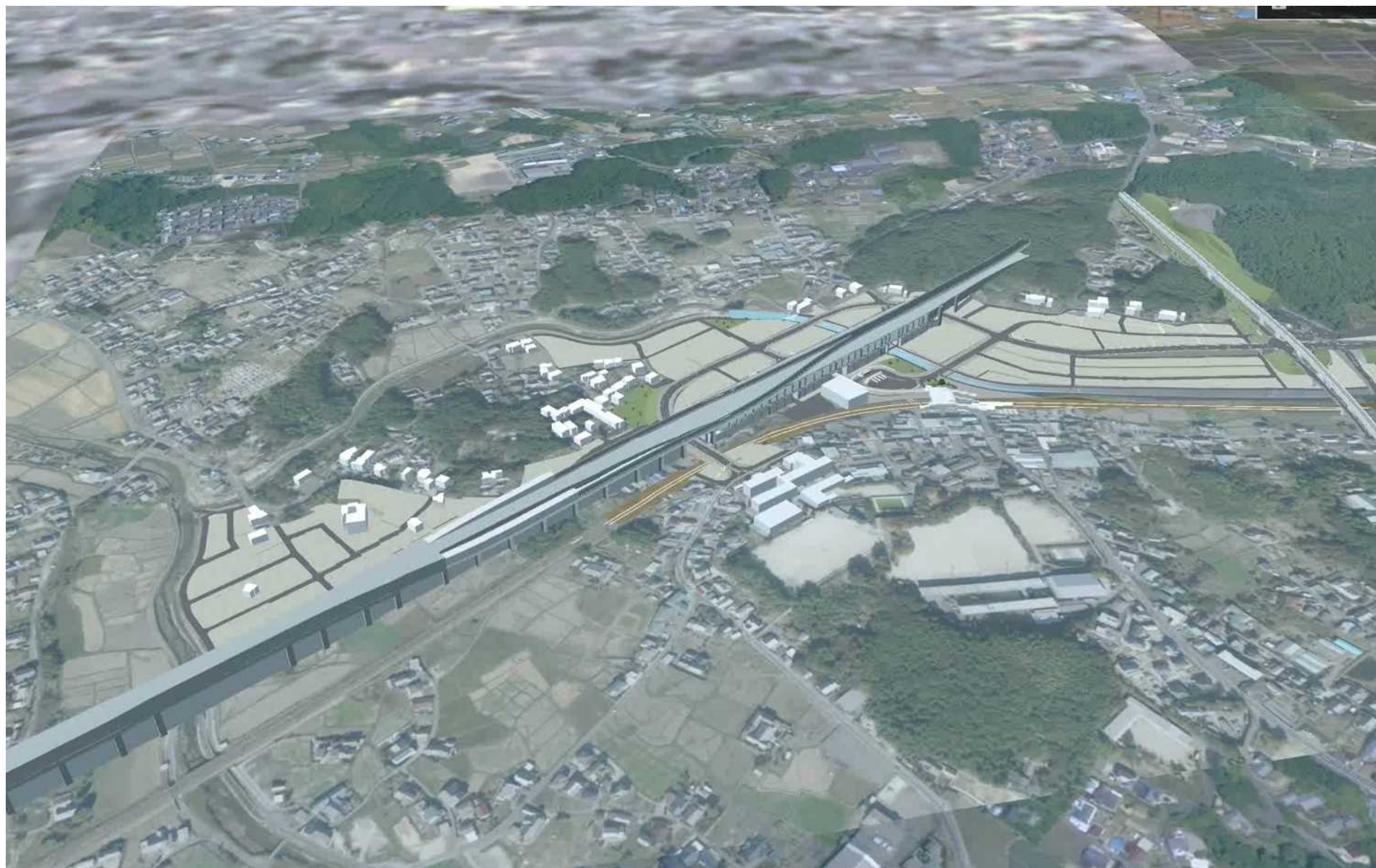


## リニア岐阜県駅 駅前広場周辺に配置する機能



出典:リニア岐阜県駅周辺整備概略設計【岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会 基盤整備部会】

# リニア岐阜県駅周辺の整備イメージ





## 4) 観光振興の取組み

観光入込客数および域内消費額の増加に向けて

- 苗木城跡、中山道における観光ボランティアの組織化、おもてなしの充実



- 馬籠宿での日本文化体験  
(地歌舞伎ミニ公演、琴の演奏など)



- 岐阜県・下呂市との広域連携による「かしも明治座」を中心とした観光地域づくり、各種体験プログラムの開発
- 「Tsumago-Magome Hike」を中心としたインバウンド誘客事業
- 「昇龍道高速バスきっぷ」を活用した中津川～下呂間の誘客
- 中部総合車両基地の観光拠点化の検討

# 4) 観光振興の取組み

## 特産品のPR

### ■ 栗きんとん



### ■ 五平餅



### ■ ミネラルトマト



### ■ 半分青い ソフトクリーム



### ■ 中津川五銘酒 (歌舞伎ver)



# 5. 今後の取組み



# 1) 「訪ねてよしのまちづくり」の推進



## ① 新たな観光スタイルの提案・発信

- ・ 観光消費を促進する体験・滞在型の観光スタイルの提案



川遊び・キャンプ



そば打ち体験



野菜・くだもの収穫

## 中心市街地の周遊イメージ



## ② 中心市街地の賑わいの創出

- ・ 滞在時間を延ばす、一体感のある魅力づくりと個店の活性化

## ③ 広域連携の促進

- ・ 全国的に知名度が十分でない本市単独ではなく、県内外と一体となって個々の地域資源の魅力を増幅させる広域観光の推進

- ・ 大都市圏における知名度のアップ

## 観光PR



# 1) 「訪ねてよしのまちづくり」の推進



## ④ 技術革新を見据えたリニアの二次交通手段の導入検討

- ・ 小型モビリティや自動運転技術などを活用した効率的で低ストレスな移動手段の検討

### 自動運転技術の活用検討

#### 過疎地域における高齢者の移動支援

中津川市坂下地区では高齢化が進み、高齢者の移動手段の確保が課題となっている。今後、路線バスや巡回バスなど公共サービスの運営環境は一層厳しくなるが見込まれるため、自動運転バスを導入し、高齢者の日常生活に対する移動支援を図る。

**自動運転バスの走行ルート(案)**

— 現状ルート  
— 新設ルート

■ 教育施設  
■ 医療・福祉・運動  
■ 銀行・郵便  
■ 買物・観光  
■ 公共施設

■ 坂下小学校  
■ 坂下中学校  
■ 坂下総合体育館  
■ 坂下福祉センター  
■ 坂下高校  
■ 坂下公民館  
■ 坂下郵便局  
■ 坂下駅前  
■ 坂下商店街  
■ 坂下病院  
■ 坂下保育園  
■ 坂下総合事務所  
■ 坂下信用金庫

■ 道の駅「さくら坂下」

■ ショッピングセンター「サラ」  
 で実施している送迎ルート

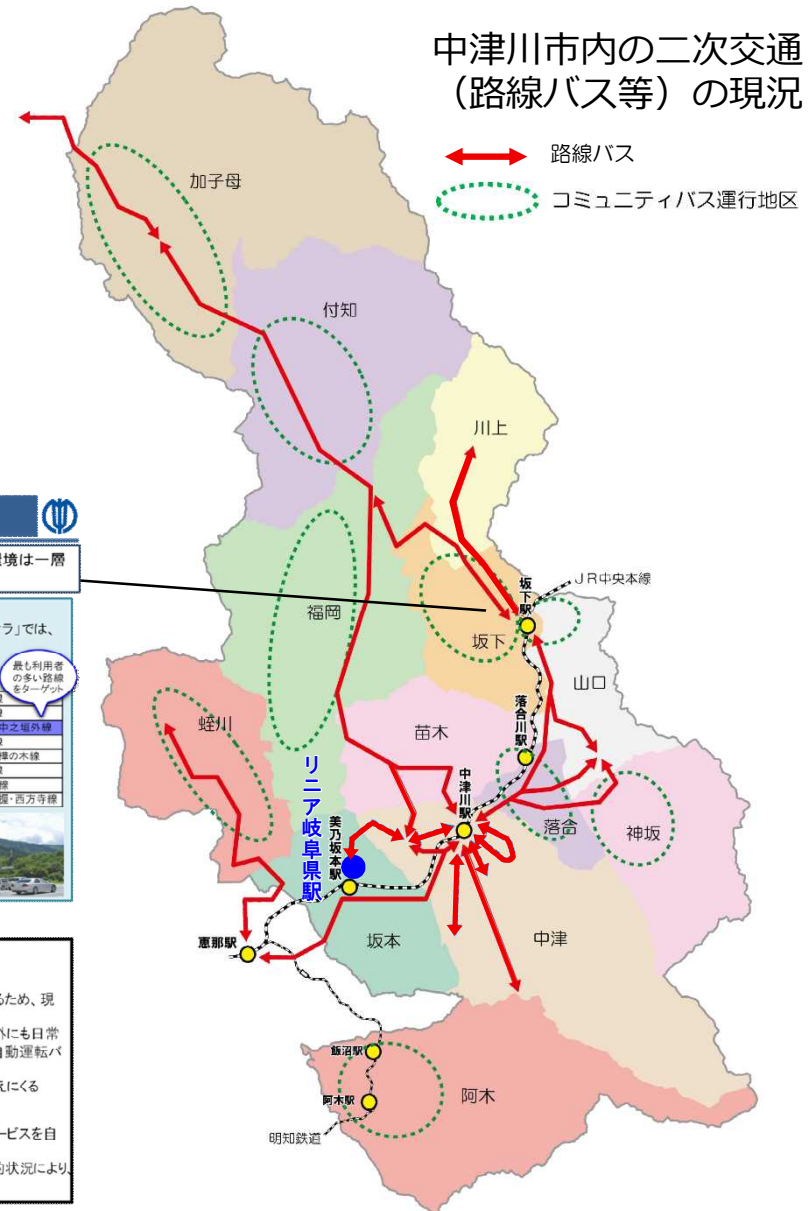
■ 高齢化した住宅団地

■ 地区内の主要施設を經由するルート

**＜現状＞**  
 ○道の駅に隣接するショッピングセンター「サラ」では、巡回送迎車を独自で運行  
 ○移動手段の乏しいお年寄りなどへ無料送迎サービスを実施中

月曜日	山口線
火曜日	川上線
木曜日	上穂・中之畑外線
金曜日	田立線
土曜日	外郎・穂の木線
日曜日	吉原線
土曜日	室この橋
	下外・堤・西方寺線

**＜自動運転技術の活用＞**  
**①自動運転バスの運行**  
 ▶ ショッピングセンターでの取組を支援するため、現状の送迎ルートで自動運転バスを運行  
 ▶ 地域の高齢化を踏まえ、上記ルート以外にも日常生活を支える施設を經由するルートで自動運転バスを運行  
 ▶ スマホで予約すれば、自宅付近まで迎えに行く  
**②その他の活用**  
 ▶ 買い物困難者への支援として、宅配サービスを自動運転化  
 ▶ 宅配サービスでは、商品引き渡しや予約状況により一人暮らし高齢者を見守る





## 2) 「住んでよしのまちづくり」を推進



### ①モノづくりの活性化と新たな産業立地の促進

- ・名古屋都市圏の後背地としての優位性を活かしたモノづくりを中心とした産業の確立
- ・災害からの安全性や市内光ファイバーを活かした、研究開発、サービス医療の企業集積、企業・行政機関などのバックアップ機能の誘致

新たな工業団地のイメージ  
(西部テクノパーク)



### ②将来の産業や生活を支える人材の育成・確保

- ・首都圏やリニア沿線地域の大学・研究機関との域学連携の推進、首都圏の大学のサテライトキャンパスなどの高度な教育機関の誘致
- ・人材を求める企業とのマッチング
- ・愛着心の醸成のためのふるさと教育の充実と、子育て環境、教育環境の総合的なレベルアップ

**域学連携**

「域学連携」とは、大学生と大学教員が地域に入り、住民とともに地域課題の解決や地域づくりに継続的に取り組む活動のことで、学生の感性、行動力、大学教員の知識や経験を生かし、地域の活性化や人材育成へとつなげていくことを目的としています。

中津川市では、「域学連携」を地域の活力を生み出す重要施策として位置づけており、今後、市内全域を学生たちのキャンパスとして、「域学連携」の取り組みを波及させ、市全体の活性化につながるよう取り組んでいます。

**学生がかがやく、街がにぎわう**

調査・研究で訪れる学生は、中津川市に滞在。地域づくりに参加する学生の活発な姿が…

地域文化の継承、若者の定住・定着、ビジネスの起業につながる事が期待されます。

**地域と大学にとってのメリット**

【地域のメリット】	【大学のメリット】
地域の活性化	実践の現場が得られる
不足する若い人材を活用する	学生地域住民の 人材育成
大学に集積する知識やノウハウを生かす	教育・研究活動へのフィードバック



## 2) 「住んでよしのまちづくり」を推進



### ③ 大都市圏などからの移住・定住環境の確保

- ・ UIターン向け住宅、田舎暮らしなどの居住ニーズの掘起しとマッチング・名古屋都市圏への通勤者向けの住宅立地の促進・自動運転技術等の導入による、市民の移動の足の確保



### ④ 豊かな自然を後世に残すための環境にやさしい都市の検討

- ・ 市民生活や事業活動を効率的に支えるスマートシティの検討
- ・ 現在実施している、環境センターのゴミ焼却熱による発電など、環境負荷の軽減に寄与する取り組みの拡張



ご清聴ありがとうございました。

